

東京演劇アンサンブル公演

走れメロス



太宰治／作 広渡常敏／脚本 公家義徳／演出 池辺晋一郎／音楽

メロスは走ります。劇場を何周も何周も。

砂嵐や洪水や山賊と戦いながら、走ります。

「おくれたら身代わりを殺すぞ。自分の生命が大事だったら、おくれるがよい。」

と言った王ディオニスの言葉が、疲れ果てたメロスを心身を撃ちます。

自分の欲望と戦いながら、メロスは走ります。

俳優の肉体が疲弊しながら何かを掴んでいく瞬間を、

ぜひライブで、目撃してください。

1976年舞台化
全国の子ども劇場公演、学校公演、
野外公演、海外公演…など
1100ステージを超える上演を重ねてきた、
あの、走る『走れメロス』再び！！

Twitterより

…しかしメロスは走る。メロスは本気で走っているのだ。メロスの息と足音しか聞こえない時間が続く。何もしていない自分がいたたまれないほど、メロスは本気で走っていた。そんな中で、驚くことが起こる。「がんばれー」という、少しだるそうな女子高生の声と拍手 2 回。緊張が会場に走る。そして続いてまた声がかかる。私は震えた。凄いことが起こったと思った。女子高生たちは、本当にメロス、いや、本当に走るあの俳優を応援していた。凄い空間に私はいた。

東京演劇アンサンブル
<http://www.tee.co.jp>

